

台湾で沢登りを〜という仲間よりも、ひと足早く台湾へ出発した。

アジアの地図で台湾を見つけるのは易しいが、台湾領の金門島ってどこだろう? と探した。中国本土と台湾との関係(歴史)を知るにつれて、…なるほどと思った。

〈金門島〉へ行くために、台北の仲間に連絡を取り、台北→金門島のチケットと宿の手配を頼んだ。友人Aさんとの2人旅、言葉はカタコトの英語とジェスチャー…、移動はタクシーと路線バスで島を巡る予定だ。

沢登りの時は、みんなでワイワイ、中国語・日本語のチャンポンでやり取りするのだが、仕事を休んで一緒に〜と台北の仲間に頼むのは申し訳ないので、緊張感もあったが、やじきた道中となった。

午後成田を出発し、その日は空港に近いホテルに泊まって、なじみの台湾の岳友らと久しぶりに歓談した。桃園空港でEさんの出迎えを受ける。いろいろ配慮して下さり、本当に感謝・感謝だ。宿は明日の出発に便利な松山空港の近くで、都心の快適なホテルだ。

夕食はEさんはじめ数人の台北の山仲間さんを交えて一献。台湾へは今回で20回以上にもなる。だから皆さんにずいぶんお世話になってきた。当面不要な装備などをEさんに預けて、身軽になって明日から金門島へ行く。これからも、どうぞよろしく!

請多指教(チンドゥツァオ)

金門島は大小15の島からなり、総面積はおよそ150km<sup>2</sup>で、瀬戸内海の小豆島くらいである。明の洪武帝のころ(1387年)千戸所城を築き、海防と侵略者からの防御の役割を担った。〈金の如く固く、雄々しい海の門〉で金門島と呼ばれるという。

大陸からの移民の子孫が暮らす島には大陸文化の影響を濃く受け継いだ遺跡も多い。各集落には必ず宗祠<sup>注</sup>があり、古跡はこの小さな島になんと30箇所以上もある。1949年に大陸の国民党政府が台湾へ移ってから1992年まで永らく軍事管制下に置か



海福ホテル前のたたずまい (写真はGoogleパノラマ)

れていた。その後、観光産業が発展してくると、それらは軍用遺跡として重要な観光資源になってきた。平和に暮らせるのは嬉しいことだ。

2日目は、金門島へ早朝の出発になるので、フロントに相談したらサンドイッチを用意してくれた。タクシーで空港へ行き搭乗手続きのあと、待ち時間にその朝食を食べた。ほぼ満席で20分遅れで出発、到着は8:40分となり海福ホテルの出迎えを受けた。

かなり上等のホテルで2泊、往復の飛行機代と合わせて6150台湾元(1元約3円)である。一服してから観光、フロントで市内地図をもらって、雨あがりの街中を散策する。

繁華街で昼食のあと、徒歩とタクシーを利用して地図を片手に街中を散策。徒歩20分ほどで高殿(楼)へ行く。最上階からの見晴らしがいい。観光バスが次々にやってくる。遠く小金門島も見え



た。帰りの路線バスの時間が合わず、疲れたのでタクシーを利用した。

時間が早いので、そのまま南端の坑道へ行く。古い軍事施設のトンネルで、こんなに広く長いトンネルをよく掘ったものだ。ここも観光客必見のところでバスで次々にやってくる。だが台北からではなく中国本土からの人が大半だそうだ。

蒋介石の時代には金門砲撃の最前線となり、中国から集中的に砲弾をあびて、島全体がボロボロになり、今の人口はおよそ7000人くらいだ。元海軍の根拠地として物資輸送のため坑道が掘られた。また昔は塩田だったところも防御のため堤を築いて湖にして、軍事拠点とした。それが今では野鳥の宝庫となっている。

永く軍事管制下にあったため手つかずの自然生態がよく残っていて、特に渡り鳥:バードウォッチングを楽しむのに最適な環境となっている。しかし高い山はない。島の中央にある大武山風景区の北大武山262m、南大武山173mくらいだ。ちなみに台湾南部にある同名の北大武山は3092mだから、同じ山名とはいえ金門島の山はちょっとだけ盛り上がった丘のようだ。

ようするに中国本土から襲撃を受けて破壊され、本土からの観光客が増えて復興してきたのか…。またタクシーで珠山の旧集落へ行く。ここも国家公園の保存区で、独特の昔ながらの村落…現在も人々が暮らしている。150年以上も前の生活に郷愁を覚える本土の人たちにとって、人気の高いところなのだろう。

その後、陶芸の作業場を見学、作品を見てまわりますが、沖縄の陶芸に酷似しているように感じた。ルーツはどちら？

夕方ホテルへ戻る。慣れない土地でキョロキョロだった…。有名な高粱酒や落花生・南瓜種子の菓子を土産に買う。夕食のあと、昨日Eさんが差し入れてくれたマンゴーなど果物がとびきり美味！台北の友人らが、金門島という一様に高粱酒～というほど有名なので、みやげ用に購入したのだ。

3日目、昨日のタクシーを頼んで、島内北部と小金門島へ向かう。

北部坑道の備え付けの望遠鏡で、晴れていれば中



大武山歩道

(写真はGoogleパノラミオ)

国本土を眼前に見ることができる。大陸本土と台湾の関係がまた険悪になったら、金門島は観光どころではないと思う。似たような境界線は、朝鮮半島にある韓国と北朝鮮の軍事境界線だろう。しかしここは陸地でなく〈海〉になったような感覚だ。猫公石岸は海岩・砂浜がきれいで、目の前に<sup>アモイ</sup>廈門の海岸・ビル群が良く見える。

午後は小金門島へ14:30の船で行く。動き出した船は15分で到着、1日に27～28便(つまり頻繁に～)で、観光と物資の輸送を兼ねている。島を一周するサイクリング道路があり、時間があればそれも楽しそう…。レンタルの自転車は無料。バイクや車もレンタルを利用できる(有料)。民宿もあるので1泊すればよりのんびり滞在できるだろう。

サイクリングで…がいいのだが、1周3時間というタクシー観光を利用した。海岸から向こう側の大陸・<sup>アモイ</sup>廈門のビル群が良く見える。大陸の明・清時代の遺跡が多いことが、郷愁を誘って観光客が多いのだろうか。昔の住居跡も見学することができる。海をはさんで僅か10数kmだから、新潟本土と佐渡島(約60km)よりはるかに近い。米国のフロリダ南端からキューバまでは、何と250kmも離れている！

一周観光してから船で戻る。昨日も今日も、タクシーは女性ドライバーだった。中国本土からの団体客が観光バスでまわるのを沢山、あちこちで見かけた。日本人では、ひとりで昨日<sup>アモイ</sup>廈門からきたという人に会った。

18時過ぎ、ホテルに戻り、夕食は街へでて名物の牡蠣のそうめん、小粒ながらたっぷりと盛られた牡蠣と出し汁のよく効いたスープ、値段はとても安い



が贅沢な美味しさだった。日本語で〈おでん〉と書いてある店もあった。

2001年から廈門との直接交流が始まり、船で約1時間という近さと安い費用で来られるようになったため、観光客の大半が大陸(中国本土)からの人々で占められるようになってきた。旧い大陸文化に人気があるようだ。

最近の台湾、政治的には中国寄り…という批判が一般国民から出ているそうだが、友好的な今だからこそ、金門島へ行くのに不安はない。再びドンパチが起こったら、それこそ大変だ。まして外国での登山は、政情不安では決して楽しめない…。

インド・中国・パキスタンなどの国境の高峰や中国西方のウイグルなどへ私は、登山以外の危険や厳しさを覚悟して行き登ってきた。

20年以上前にインド北方の山へ行った時には、日本・外務省で危険地帯(インド・パキスタン)ですよ、と念を押され、身の安全は保証が難しいともいわれた。(行くな、ということか)中国西方のムスターグ・アタへ登頂した時には、漢民族とウイグル族との差別はみられたが大きな暴動はなかった。今ウイグル紛争のニュースに接するたびに心が痛む…。平和なら地球のどこへでも行けるだろうに…。原爆実験が何回も行われているというが、極秘扱いで報道されないようだ。

だが、政治とは関係なくとも、そして登山以外にも事故は身近だ。金門島を訪問した翌年に、台北から金門島行きの飛行機が空港を飛び立った直後に墜落! というニュースがあった。以前、韓国からの帰国の日に、北朝鮮からの爆撃(ヨンピョン島)というのがあったし…。またスペインからの帰国のときは、翌日にあの同じ空港で飛行機炎上という大惨事が起きた。まさか～は命とり…、山だって詩人にも死人にもするけど、どこでも油断大敵だ。

4日目、午前中は水頭港の南にある旧住宅街を見てまわった。雨にもかかわらずここにも沢山の観光客が来ていて、往復路線バスを利用した。

午後の便で台北・松山へ戻る。午後は遡行パーティと合流して巴稜の山荘へ向かう。今日から台湾は梅雨入りで、日本よりも約1か月以上も早いので、GWに日本から台湾へという、天気が不安定なこ

とを考えたほうがいい。

Eさんが迎えに来てくれた。沢登りの仲間たちと一緒に、巴稜へ向かう。途中の三峡で夕食後、渓谷沿いの山道をひた走り…、21時過ぎ宿へ着いた。

翌日からは台湾中部での沢登り、去年はあまりの水量で途中退却だったそうだが、今年は、平年並みで日台交流の沢登りをした。泳ぎの連続で、私はロープにつながれて引っ張ってもらいながら、楽しめた。終了点には温泉がわき出ている～という沢で、みんな登攀用具をはずし、Tシャツを着て湯にひたる…。ごくらく!!

台湾の面積は九州くらいだが、百名山は全て3000m以上で、日本の深田百名山のように、低山は含まれない。ちなみに日本には3000mを超える山は26山で、台湾には200座以上もある。だから渓谷も変化に富んでいて、海岸から沢靴を履いて、山頂まで標高差が3000mの谷を遡行したこともある。

日本一は富士山、台湾の玉山は3952mで昔は新高山ともよんだ。代表的な山を〈五岳〉と呼び、高い順ではないが日本からの登山者にも人気がある。そして、槍ヶ岳のように尖った山のうち三山を〈三尖〉という。合わせて〈五岳三尖〉、百名山の全ては(百嶽という)台湾の人にとっても大変だが、五岳なら～と登る人も多し、沢仲間にも〈百嶽完登〉した人もいる。

何よりの魅力は、ご神木と呼ばれる巨大なヒノキの原生林である。伊勢神宮の建築にも、はるばる台湾から運ばれたヒノキが使われた。屋久島の縄文杉よりも大きなヒノキの集まるご神木公園というものもある。3年前、私はその五岳三尖を完登して、台湾の仲間たちから祝福を受け、立派な盾まで頂いた。おめでとう!のことが登れたことよりも嬉しかった…。初めから意識していたわけではなかったのだが、玉山登山から25年後のことだった…。時差1時間の台湾へは、行きやいので何度も足を運び、一緒に手強い沢登りや雄大な縦走登山を楽しんだ。また日本へ沢登りや百名山を目指して訪日する仲間と同行したりなど、交流登山も楽しい。

注) 宗祠:一族の祖先をまつてあるところ。祖廟